



## 共に歩む、これからの医療と看護

### 1. 多彩な専門職が「チーム」であなたを支えます

今の医療は、医師や看護師だけでなく、薬剤師、管理栄養士、リハビリを担う理学療法士や作業療法士、検査や放射線の技師、そして生活の相談に対応するソーシャルワーカーなど、多彩な専門職がひとつのチームとなって皆さまを支えています。そして、このチームの最も大切なメンバーは、患者さんご自身とご家族です。私たちは、単に病気を治すことだけではなく、皆さまが「自分らしい生活」をどう継続していくかを共に考える、一番身近なパートナーでありたいと願っています。

### 2. 医療の未来を形にする「スマートホスピタル」への期待

今、全国の病院ではAI(人工知能)やロボットなどの最新技術を病院全体に組み込むことで、「医療の質の向上」と「現場の効率化」を同時に実現する「スマートホスピタル」という新しい姿が注目されています。最先端の現場では、ベッドに備えられた高精度なセンサーが24時間体制で心拍や呼吸、寝返りの動きを静かに見守り、わずかな異変もAIが即座に捉えてスタッフの端末へ通知する仕組みが導入され始めています。また、画像診断ではAIが「強力な助手」として、何百枚もの検査画像から微細な病変を数秒で見つけ出し、診断のスピードと精度を飛躍的に高めることも可能になってくると言われています。こうした「目視や確認、移動」といった作業をテクノロジーが正確に肩代わりすることで、ヒューマンエラーを防ぎ、より精密な医療が提供できるようになると期待されているのです。

### 3. 「専門職だからこそできること」を大切にするために

当院はまだその途上にありますが、大切にしたい本質は同じです。それは、「機械にできることは機械に、人にしかできないことは人に」という役割分担を明確にすることです。将来的に活用できる技術が増えたとしても、医療の主役は常に「人」です。私たちは最新の知識や技術を、あくまで「患者さんやご家族の願いや不安を深く理解し、専門的な判断に基づいたケアを提供する時間」を確保するための助けとして活用したいと考えています。これからも皆さまの声に耳を傾け、信頼に応え寄り添う看護を大切に歩んでまいります。

看護部長 山崎 利枝



## 「いのちのエンジニア」が守る、あなたの心臓と最新テクノロジー

病院での診察待ちの時間、少しでも私たちの仕事についてお話しさせてください。私たちは臨床工学技士(CE)です。院内では「いのちのエンジニア」とも呼ばれています。

なぜ医療職でありながら「エンジニア」なのか。それは、私たちが「医学」と「工学」という二つの分野を繋ぐ架け橋だからです。現代の医療は驚くほど高度なテクノロジーに支えられています。心臓や肺の代わりにする人工心肺装置、血液をきれいにする透析装置、そして呼吸を助ける人工呼吸器。これらは文字通り患者さんの「いのち」に直結する機械です。私たちは、これらの精密な機械を常に最高のコンディションに保ち、時には自ら操作して治療にあたります。機械の「声」を聴き、技術で命を支える。その誇りが、この呼び名に込められています。

### 心臓の「指揮者」ペースメーカとの歩み

特に循環器の分野では、多くの医療機器が活躍しています。その代表格が「心臓ペースメーカ」です。ペースメーカは、心臓のリズムが乱れてしまった時に、適切な電気信号を送ってリズムを整える「小さな指揮者」のような存在です。

「体に機械を入れるのは不安……」「生活に制限が出るのでは？」と感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、ご安心ください。私たち臨床工学技士は、専用のコンピュータ(プログラマ)を用いて、患者さん一人ひとりの生活スタイルに合わせた最適な設定を行っています。

また、よく質問を受ける「電磁波」についても、現在の機器は非常に進化しています。スマートフォンも、通常の通話であれば過度に心配する必要はありません。私たちが定期的なチェックを通じて、機器が正しく動いているか、電池の残量は十分かを厳密に管理しています。皆さんが安心して自分らしい毎日を過ごせるよう、技術の面からしっかりとガードしています。

### 「音」や「エラー」も安心のしるし

診察室や検査室から「ピッ、ピッ」という音が聞こえてくることがあります。これはアラームと呼ばれますが、必ずしも「異常」を知らせるものだけではありません。「お薬の準備が整いました」といった、正常な報告の音も多いのです。また、血圧計のエラーも「正しく測り直して、正確なデータをお伝えしたい」という機械の真面目さの表れです。

### 最後に

医療機器は日々進化していますが、その中心にいるのは常に「人」です。私たち臨床工学技士は、テクノロジーを通じて皆さんの健康を舞台裏から全力でサポートしています。



臨床工学科技士長 中川 孝太郎



## 「前立腺肥大症の王道ともいえる治療選択肢

### — 経尿道的前立腺切除術について —

年齢とともに増えてくる排尿の悩みの代表が「前立腺肥大症」です。尿の勢いが弱くなった、トイレが近い、夜中に何度も起きる、残尿感があるなど、日常生活の質を大きく下げってしまう病気ですが、「年のせいだから仕方ない」「薬を飲み続けるしかない」と我慢されている方も少なくありません。

横浜栄共済病院泌尿器科では、薬物治療で十分な改善が得られない患者さんに対して、**経尿道的前立腺手術**を行っています。この治療法は長年行われてきた標準的な方法で、尿道から内視鏡を挿入し、肥大した前立腺を削り取って尿の通り道を広げる手術です。体の外に傷をつけることなく行えるため、体への負担が比較的少なく、確実な排尿改善効果が期待できます。最近ではレーザー治療など新しい治療法も登場していますが、経尿道的前立腺手術は長い歴史があり、効果と安全性が確立された「王道」とも言える治療です。当科では、この手技を数多く経験した医師が担当し、出血を最小限に抑え、合併症を防ぐ工夫を重ねながら、質の高い手術を提供しています。「従来の方法だからこそ、技術力が結果に直結する治療」であり、私たちはその技術に自信を持っています。

手術後は尿の勢いが改善し、排尿にかかる時間が短くなった、また残尿がある方は残尿が減少することにより夜間頻尿が減ってぐっすり眠れるようになったなど、多くの患者さんが生活の変化を実感されています。入院期間も比較的短く、早期に日常生活へ復帰できる点も大きな利点です。

前立腺肥大症は放置すると、尿閉（尿が出なくなる状態）や腎機能障害、尿路感染症などを引き起こすこともあります。「年齢のせい」と我慢せず、適切な時期に治療を受けることが大切です。当科では、薬物治療から手術治療まで、患者さんの症状や生活背景に応じて最適な治療法をご提案しています。

排尿トラブルでお困りの方は、どうぞ安心して横浜栄共済病院泌尿器科へご相談ください。経験豊富な医師による確かな技術と丁寧な説明で、皆さまが再び快適な日常生活を送れるようサポートいたします。

泌尿器科部長 長島 政純



# 笑顔で過ごす毎日のために 人間ドック

忙しい方でも気軽にチェックできる半日コースです  
生活習慣病の早期発見や、がん年齢にかかるすべての方に最適な検査を行います

## 基本A コース

胃部検査 胃X線検査(バリウム)

税込 **47,300** 円

## 基本B コース

胃部検査 経鼻内視鏡

税込 **55,000** 円

### 基本コースの内容はこちら

- ① 問診・診察
- ② 身体測定  
身長・体重・体脂肪・腹囲・視力
- ③ 眼底・眼圧
- ④ 聴力検査
- ⑤ 肺機能検査
- ⑥ 心電図検査



- ⑦ 胸部レントゲン
- ⑧ 腹部超音波検査
- ⑨ 上部消化管検査  
胃X線検査または経鼻内視鏡検査
- ⑩ 血液検査  
腎機能・肝機能・血糖  
血液一般・腫瘍マーカーなど
- ⑪ 尿検査・検便

### 健康医学センターよりプッチ情報

横浜市国民健康保険に加入されている50~74歳の方は、特定健診(メタボリック検診)と横浜市のがん検診(胃・肺・大腸)を併用することで人間ドックの費用を抑えることができます。

割引システムを利用して、人間ドックを受検してみませんか？

詳しくは、当センターへお問合せください。

(例) 基本Bコース(55,000円) → 30,800円 + 横浜市がん検診自己負担額  
(680円~3180円)

人間ドックは完全予約制です

栄共済 人間ドック



【ご予約・お問合せ】健康医学センター ☎045-895-8370 (平日14:00~16:00)



本紙に関するご意見ご感想がありましたらお聞かせください。  
〒247-8581 横浜市栄区桂町132番地 横浜栄共済病院 まちあい室係  
電話 0570-012-171(ナビダイヤル) FAX 045-895-8351  
当院の診療案内はホームページ(QRコードより)でご確認ください。



病院敷地内は  
全面禁煙です

ご協力お願いいたします